

## 令和4(2022)年「正覚寺報」4月号

## お知らせ

新型コロナウイルスはピークアウトしても尚12才以下の子供達がオミクロン株に感染し易いため小松仏教会の花祭りは今年も遠慮する事態になってしまいました。

何が問題かと云えば今年で三年目であり子供達の伝統文化が伝わらなくなる心配です。

五月の正覚寺の降誕会(ごうたんえ)も子供達が主体になるため、どうすべきかは、佛壮お聴聞の会で揉み最終決定して戴きます。

記

4月3日(日)19時半 佛壮 お聴聞の会

4月16日(土)19時半 佛婦 例会

## 夜は安心して睡眠に入れるか

自然に寝入れるかは年配者共通の課題です。西欧薬の睡眠導入剤は目覚めた後に残った薬分で昼間も眠くなる問題があります。

いろんな処方を試みましたが、「紫胡加竜骨牡蛎湯(さいこかりゅうこつほれいとう)」という名前ばかりは大変いかめしい漢方薬は、ツムラの薬番12にもあり、効き目が穏やかなため二袋水分なしで服用して休めば一番穏やかに休むことができます。

薬は面白いもので服用したという安心感で寝入ることができます。

夜半は夢の中で「お法(みのり)」のお聴聞に与ります。坊守は「そんな結構なことはない。」と揶揄(やゆ)しますが、これが本当なのです。却って夢の中の方が忘れていた御文も思い返されしっかり道行きが整理されて参りますので有り難さはひとしおです。

但し、道行きを繰り返し味わうと目が覚めてしまうのが問題ではあります。

昨今、他院のご門徒様から「毎朝、正覚寺さまの朝の鐘を聞くのが楽しみです」と聞かされてからというもの鐘楼に昇って第一鐘を耳にするまでは疎かにはできません。

それ故、「寝過ごしてはならない」ことが課題になりますが、北小松自治会館新築記念の目覚ましの働きが助けてくれます。

「同一に念仏して他に道無き故に」という七高僧は曇鸞大師(どんらんだいし)のみ教えを手掛かりに、「ここにお浄土への道行きが示されているんだよ」と明らかにして下さったお方こそ親鸞聖人です。

親鸞聖人のお導きにより如来様が回向して下さったみ教えに遇わせて戴き、回向されたお念仏を「さようございますか」とお念仏する姿こそ、衆生にとっては、ご本尊のお姿を仰ぎ称えさせて戴く「讃仰(さんごう)」のお念仏へのお導きだったからです。

「阿弥陀仏の御名(みな)をきき

歡喜讃仰せしむれば

功德の宝を具足して

一念大利無上なり」と、浄土和讃第三十番にそのお心が明らかにされています。

お御法が着実に働いて下さるためには、あとはこれを確実に実践し体験となるかが課題になりますが、これが毎月のお聴聞の会の役割だったのです。

そのことを明確にするために、正覚寺では、十年前から「正覚寺の基本方針と同行方針」を発行してホームページで公開して参りますが、面白いことに宗門では 部で本年度から末寺の活動は文書化して取組めと定められることになったのです。合掌。